

# shindaiwa

## 取扱説明書

携帶用発電機

### EGM24L

空冷4サイクル・OHVガソリンエンジン

目 次	頁
1. 安全上の注意	2
2. 仕様	4
3. 用途	5
4. 各部の名称	6
5. 装備	7
6. 運転方法	8
6-1. 始業前点検	8
6-2. 始動	10
6-3. 停止	11
7. 発電機の操作	12
7-1. 操作	12
7-2. 使用できる機器の容量	12
8. 点検・整備	14
9. 長期保管	17
10. 故障時の対応	18



注意：安全のため、ご使用前に必ずこの取扱説明書をお読みください。また、いつでもご覧いただけるよう、大切に保管してください。

## はじめに

このたびは、新ダイワの携帯用発電機をお買い求めいただき、まことにありがとうございます。

- この取扱説明書は、本機を安全に正しく使用していただくために作成しています。  
本機の取り扱いを誤りますと事故や故障の原因となりますので、ご使用前には必ずこの取扱説明書をお読みください。
  - 本機の取り扱いは、この取扱説明書の内容を理解し、安全な取り扱いができる人が行ってください。
  - 本機を貸し出す時は、必ず取扱説明書を添付してください。
  - 取扱説明書は、いつでもご覧いただけるように大切に保管してください。
- この取扱説明書では、注意事項のランクを下記のように区分しています。

**!  
危険**：取り扱いを誤ると、死亡または重傷を負う可能性がある場合。

**!  
注意**：取り扱いを誤ると、中程度の傷害や軽傷を負う可能性がある場合、および物的損害が発生する可能性がある場合。

**<注意>**：本機の保護と、本機の性能を十分に發揮させるための注意事項。

- 『!  
注意』に記載した事項でも、状況によっては重大な事故に結びつく可能性があります。いずれも重要な内容を記載していますので、必ず守ってください。

## 1. 安全上の注意

### !**危険：排気ガス中毒**

- エンジンの排気ガス中には、人体に有害な成分が含まれていますので、室内・トンネルなどの換気の悪い所では運転しないでください。

### !**危険：感電**

- 運転中、本機や体がぬれているときは、本機に触れないでください。
- 出力コンセントや発電機の開口部に、ピンや針金などの金属物を入れないでください。
- 点検・整備を行うときは、必ずエンジンを停止してください。

### !**注意：排気ガス中毒**

- 排気を通行人や民家などに向けないでください。

### !**注意：感電**

- 本機に水をかけたり、雨中での使用はしないでください。
- 運転中は、スパークプラグ・プラグキャップ・高圧線には触れないでください。

### !**注意：火災**

- 本機は、燃料としてガソリンを使用しています。燃料の点検や給油・抜取り、燃料ストレーナーの清掃など、燃料を扱うときは必ずエンジンを停止し、絶対に火気を近づけないでください。また、エンジンが冷えてから行ってください。
- 燃料をこぼしたときは、必ずふき取ってください。  
また、燃料もれがある場合は、絶対に使用せず、必ず修理してください。
- マフラー・排気ガスなどは高温となるため、引火性のある物(燃料・ガス・塗料など)や燃えやすい物は、本機に近づけないでください。
- 本機は壁などの障害物から1m以上離し、水平な場所で運転してください。
- 保管用カバーなどをかけるときは、本機が冷えてから行ってください。
- 屋内配線に接続しないでください。

## ⚠ 注意：やけど

- 運転中や停止直後は、エンジンやマフラーが高温になっていますので、触れないでください。
- エンジンオイルの点検・交換を行うときは、必ずエンジンを停止し、エンジンが冷えてから行ってください。運転中にオイルゲージを開けると、高温のオイルが吹き出します。

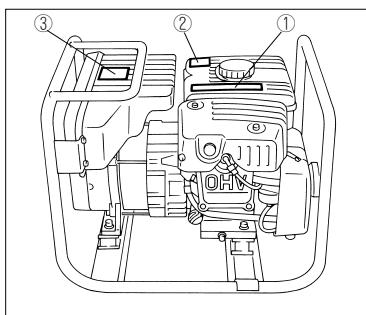
## ⚠ 注意：けが

- 本機が移動しないよう、水平で安定した場所に設置してください。
- エンジンを始動するときは、必ず使用機器のスイッチを切り、ブレーカーを『OFF』にしてください。
- 回転部に棒・針金・ひもなどを入れないでください。
- 回転部に巻き込まれる恐れがありますので、長い髪は束ね、スカーフやアクセサリー類のぶらつく物は身に付けないでください。
- 運転中に移動しないでください。
- 点検・整備を行うときは、必ずエンジンを停止してください。
- 改造したり、部品をはずしたままで運転しないでください。

## ■警告ラベル貼付位置

警告ラベルが見えにくくなったり破損したときは、新しいラベルを指定場所に貼りかえてください。ラベルの注文は（ ）内の番号で注文してください。

- |         |                 |
|---------|-----------------|
| ①排気ガス中毒 | (品番KW56128AA)   |
| ②火災     | (品番KW56129AA)   |
| ③感電     | (品番19402-00156) |



## 2. 仕様

モ デ ル		EGM24L-A	EGM24L-B
発電機	発電方式	回転界磁型同期発電方式	
	励磁方式	自己励磁	
	電圧調整方式	コンデンサ方式	
	周波数(Hz)	50	60
	相	単相	
	定格出力(kVA)	2.1	2.4
	定格電圧(V)	100	
	定格電流(A)	21	24
	定格回転速度(min <sup>-1</sup> )	3000	3600
	力率	1.0	
エンジン	定格	連続	
	過電流保護	ノーヒューズブレーカー	
	名称	三菱GM182	
	型式	空冷4サイクルOHV式ガソリンエンジン	
	連続定格出力(kW/min <sup>-1</sup> (PS/rpm))	2.8/3000 {3.8/3000}	3.3/3600 {4.5/3600}
	排気量(ml)	181	
	燃料の種類	無鉛ガソリン	
	潤滑油容量(L)	0.56	
	始動方式	リコイルスターター式	
	オイルセンサー	有	
装備	スローダウン	無	
	燃料タンク規定容量(L)	3.3	
	連続定格運転時間(h)	2.3	2.0
	外形寸法 L×W×H(mm)	520×420×430	
乾燥質量(kg)		39.5	

### 3. 用途

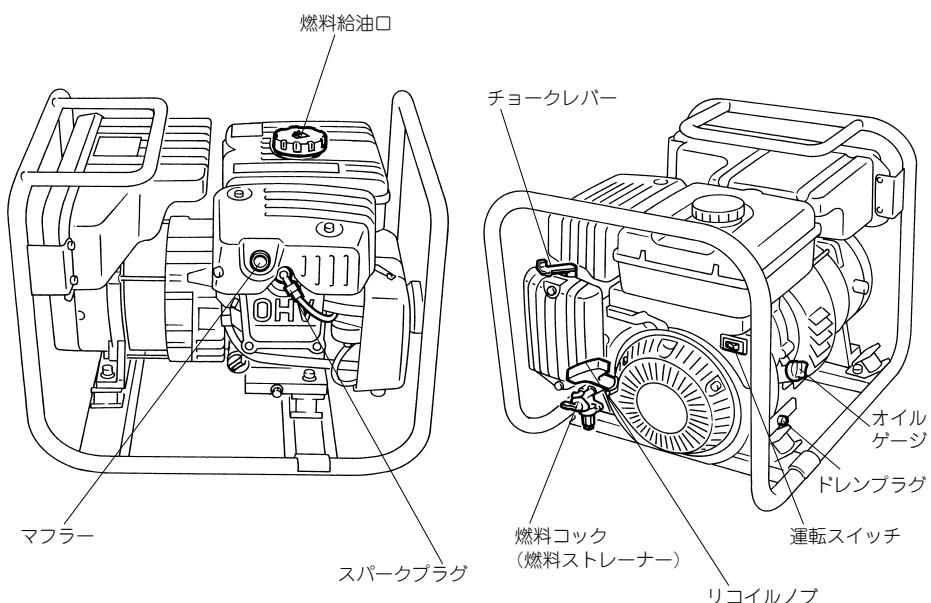
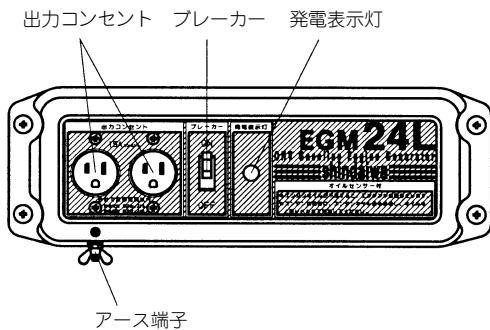
- 電動工具の電源
- 照明機器の電源
- 家電機器の電源



#### 注意：物的損害

- コンピューター・マイコン搭載機器・精密機器の電源として使用しないでください。使用機器が故障することがあります。

## 4. 各部の名称



## 5. 装備

### (1) オイルセンサー



#### 注意：やけど

- エンジンオイルの点検・交換を行うときは、必ずエンジンを停止し、エンジンが冷えてから行ってください。運転中にオイルゲージを開けると、高温のオイルが吹き出します。

オイルセンサーは、エンジンオイルが少なくなると自動的にエンジンを停止させ、エンジンの焼き付きを防止する装置です。

エンジンが自動停止したときは、『エンジンオイルの点検（P 8）』の項を参照してエンジンオイルの量を点検し、エンジンオイルを上限レベルまで給油してください。

#### <注意>

- オイルセンサーは、オイルの劣化を検知することはできません。エンジンオイルは、『エンジンオイルの交換（P 15）』の項を参照して定期的に交換してください。

### (2) ブレーカー



#### 注意：けが

- ブレーカー作動後、再度『ON』にするときは、必ず使用機器のスイッチを切ってください。

電流を取りすぎると、ブレーカーが作動し『OFF』になります。

運転中に使用機器が停止した場合は、ブレーカーを点検してください。

ブレーカーが『OFF』になっているときは、つぎの操作をしてください。

① 使用機器のスイッチをすべて切ります。

② ブレーカーを『ON』にします。

#### <注意>

- 『使用できる機器の容量（P 12）』の項を参照し、電流を取りすぎないよう注意して使用してください。

### (3)アース端子

本機をアース（接地）する端子です。

使用機器をアースしたときは、本機も必ずアースしてください。

## 6. 運転方法

### 6-1. 始業前点検



#### 注意：火災・やけど・けが

- 点検時は必ずエンジンを停止し、絶対に火気を近づけないでください。また、エンジンが冷えてから行ってください。

#### (1)エンジンオイルの点検

オイル量の点検は、本機を水平にし、オイルゲージを給油口に差し込んだ状態で（ねじ込まないで）確認してください。

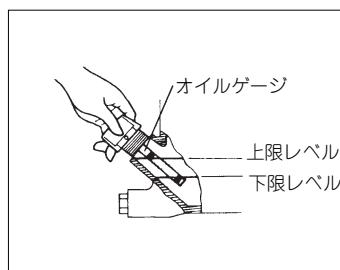
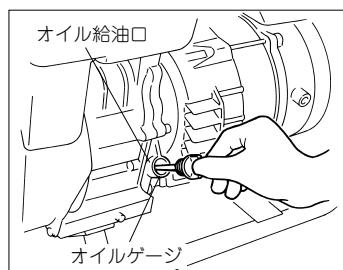
始業前には、オイルを上限レベルまで給油しておいてください。

オイル容量：約0.56L（全量）

オイル有効量：約0.23L（下限レベルから上限レベルまで）

#### <注意>

- 本機が傾いた状態では、オイル量を正確に確認することができません。
- オイル量が下限レベル付近で使用すると、本機の傾きによってはオイルセンサーが作動せず、エンジンが焼き付くことがあります。



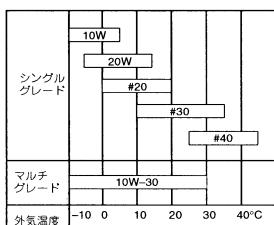
## ■エンジンオイルの選定

オイルは外気温度に応じて適正な粘度（表を参照）のガソリンエンジン用オイルを使用してください。

### <注意>

- オイルの品質は、S C級以上のものを使用してください。
- マルチグレードを使用した場合、外気温度が高いとオイルの消費量が増えますので、オイルの残量に注意してください。

### オイル粘度の選定基準



## (2)燃料の点検



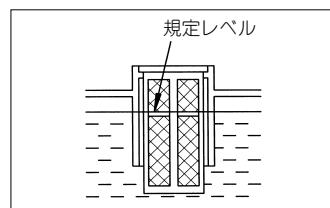
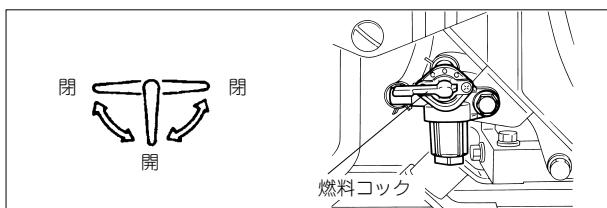
### 注意：火災

- 燃料をこぼしたときは、必ずふき取ってください。

燃料が規定レベル内に十分入っているか点検し、不足しているときは給油してください。

### <注意>

- 2ヶ月以上使用しなかった燃料は、新しい燃料に入れ換えてください。
- 燃料は無鉛ガソリンを使用してください。
- 給油時は燃料コックを閉じ、給油口に装着してある燃料コシ網を必ず使用してください。
- 燃料は規定レベル以上給油しないでください。（規定容量：約3.3L）



## (3)燃料・オイルもれの点検



### 注意：火災

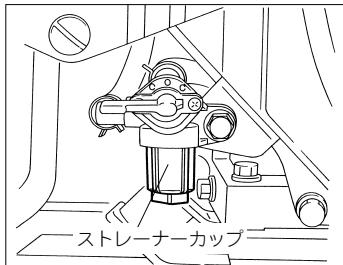
- 燃料もれがある場合は、絶対に使用せず修理してください。

燃料配管接続部などからの燃料もれと、エンジンからのオイルもれがないか点検してください。

燃料もれの点検は燃料コックを開いて行い、点検後は必ず燃料コックを閉じてください。

#### <注意>

- ストレーナーカップがゆるんでいたら、増し締めしてください。



## 6-2. 始動



#### 危険：排気ガス中毒

- エンジンの排気ガス中には、人体に有害な成分が含まれていますので、室内・トンネルなどの換気の悪い所では運転しないでください。



#### 注意：排気ガス中毒

- 排気を通行人や民家などに向けないでください。



#### 注意：火災

- マフラーや排気ガスなどは高温となるため、引火性のある物（燃料・ガス・塗料など）や燃えやすい物は、本機に近づけないでください。
- 本機は壁などの障害物から1m以上離し、水平な場所に設置してください。



#### 注意：けが

- 本機が移動しないよう、水平で安定した場所に設置してください。
- 始動前に、必ず使用機器のスイッチを切り、ブレーカーを『OFF』にしてください。

1 ブレーカーを『OFF』にします。

2 燃料コックを『開』にします。

③ 運転スイッチを『ON』にします。

④ チョークレバーを『閉』にします。

#### <注意>

- エンジンの暖機状態や外気温度に合わせて、チョーク操作を加減してください。

⑤ リコイルノブを重くなるところ（圧縮点）までゆっくり引き、一度元にもどして一気に引きます。

#### <注意>

- リコイルノブは、いっぱいに引ききらないでください。また、引いた位置から手放さずに、ゆっくりと戻してください。

⑥ エンジン始動後、チョークレバーを『開』にします。

#### <注意>

- 始動後、すぐにチョークレバーを『開』にするとエンストがあるので、エンジンの調子にあわせて徐々に操作し、最後には必ず『開』側いっぱいにしてください。

⑦ 約5分間、暖機運転をします。

## 6 - 3. 停止

① ブレーカーを『OFF』にします。

② 約3分間冷機運転をします。

③ 運転スイッチを『OFF』にします。

④ エンジン停止後、燃料コックを『閉』にします。

#### <注意>

- 運転スイッチを『OFF』にしてもエンジンが止まらないときは、そのまま燃料コックを閉じてください。数分後に停止します。

その場合は、本機をそのまま使用せずに、お求めの販売店か弊社営業所に修理を申し付けてください。

## 7. 発電機の操作



### 危険：感電

- 本機や体がぬれているときは、本機に触れないでください。



### 注意：けが

- 使用機器のスイッチが『OFF』になっているのを確認してから、出力コンセントに電源プラグを差し込んでください。



### 注意：物的損害

- コンピューター・マイコン搭載機器・精密機器の電源として使用しないでください。使用機器が故障することがあります。

## 7-1. 操作

エンジン始動後、ブレーカーを『ON』にすれば、出力コンセントから100V交流電源が取り出せます。

### <注意>

- 出力コンセント1個から取り出せる電流は、15Aまでです。
- 2個のコンセント合計で定格電流以内で使用してください。  
定格電流 EGM24L-A (50Hz) : 21A  
EGM24L-B (60Hz) : 24A
- 運転中は、ブレーカーが『OFF』でも発電表示灯が点灯します。

## 7-2. 使用できる機器の容量（目安）

電動工具や家電機器は、その種類・性能によって使用できる容量が異なりますので、次の表（目安）を参照してください。

使用機器	容量の目安 (W:ワット)	
	50Hz	60Hz
白熱電球、電熱器など	2100	2400
蛍光灯、電動工具（整流子モーター）など	1100	1200
水銀灯（高力率型）(W×台数)	400×2	400×2
水中ポンプ (W×台数)	480×3	480×4
コンプレッサー (W×台数)	400×1	400×1

※容量の数値は、水中ポンプ・コンプレッサーは『出力』、他の機器は『消費電力』で表示しています。

※水中ポンプは「コンデンサモータ」方式の場合です。

## <注意>

- モーターを使用した機器は、機器の定格より大きい電力を必要とすることがありますので、お求めの販売店か弊社営業所にご相談ください。
- 水銀灯・水中ポンプ・コンプレッサーなどの機器を2台以上使用するときは、機器を同時に起動させないで、1台ずつ起動させてください。
- 水銀灯を消灯した直後に再点灯するときは、約15分間待ってランプが冷えてから点灯してください。
- 水銀灯は、多少チラツキが発生することがあります。

## 8. 点検・整備

### !**危険：感電**

- 必ずエンジンを停止してください。

### !**注意：けが**

- 必ずエンジンを停止してください。

### !**注意：火災・やけど**

- 絶対に火気を近づけないでください。
- エンジンの停止直後は、エンジンやマフラーが高温になっていますので、エンジンが冷えてから行ってください。

本機を常に良好な状態で使用できるよう、次の表にしたがって定期的に点検・整備を行ってください。

#### <注意>

- 表中の●印はお求めの販売店か弊社営業所に申し付けてください。

項目		始業前点検	50時間ごと	200時間ごと	500時間ごと
1	各部の清掃・締付点検	○			
2	エンジンオイルの点検・給油	○			
3	エンジンオイルの交換	第1回目 (20時間目)	第2回以降 ○		
4	燃料ストレーナーの清掃			○	
5	燃料・オイル漏れの点検	○			
6	エアクリーナーの清掃		○		
7	スパークプラグの清掃		○		
8	スパークプラグの調整			○	
9	吸排気弁の点検・すり合わせ				●
10	燃焼室内の清掃				●
11	オーバーホール				●

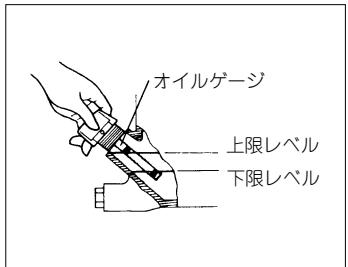
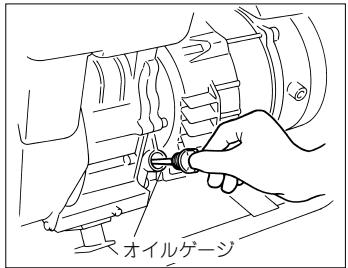
#### <注意>

- 燃料パイプや防振ゴムは1年ごとに交換してください。
- 交換部品は、必ず純正品を使用してください。

## (1)エンジンオイルの交換

初回	20時間目
2回目以降	50時間ごと

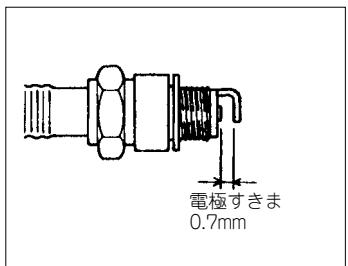
- ① オイルゲージをはずします。
- ② ドレンプラグをはずして、エンジンオイルを抜きます。
- ③ ドレンプラグを締め付けます。
- ④ エンジンオイルを上限レベルまで入れます。  
(約0.56L入ります)
- ⑤ オイルゲージを締め付けます。



## (2)スパークプラグの清掃と調整

清掃	50時間ごと
調整	200時間ごと

- ① プラグキャップを取り、プラグレンチでスパークプラグをはずします。
- ② スパークプラグが汚れているときは、プラグクリーナーかワイヤーブラシで汚れを落とします。
- ③ 電極すきまを0.7mmに調整します。



### <注意>

- プラグは『N G K B P R 6 H S』を使用してください。

### (3)エアクリーナーの清掃

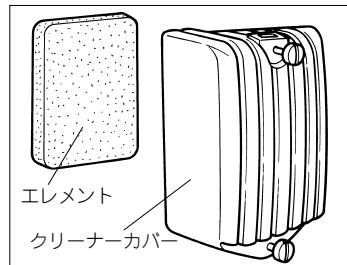
清掃 50時間ごと

#### <注意>

- 汚れがひどくなると、出力低下や始動不良などを起こす原因となりますので、ホコリの多い場所で使用したときは早めに清掃してください。

① クリーナーカバーをはずします。

② エレメントを取り出し、白灯油で洗浄後、エンジンオイルに浸し、片手で固く絞って取り付けます。



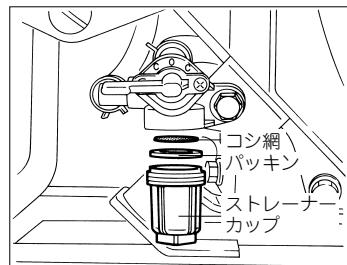
### (4)燃料ストレーナーの清掃

清掃 200時間ごと

① 燃料コックを『閉』にし、ストレーナーカップを左に回してストレーナーカップをはずします。

② ストレーナーカップ内の水やゴミを捨て、コシ網に付着しているゴミを取り除きます。

③ ストレーナーカップを燃料もれのないようにしっかりと取り付けます。



#### <注意>

- ストレーナーカップを取り付けるとき、パッキン部にゴミが付着していないことを確認してください。
- 取り付け後は、燃料コックを『開』にして燃料もれがないことを確認し、確認後は『閉』にしてください。

## 9. 長期保管

### !**危険：感電**

- 整備を行うときは、必ずエンジンを停止してください。

### !**注意：けが**

- 整備を行うときは、必ずエンジンを停止してください。

### !**注意：火災・やけど**

- 火気を近づけないでください。
- エンジンの停止直後は、エンジンやマフラーが高温になっていますので、エンジンが冷えてから整備を行ってください。

本機を2ヶ月以上使用しないときは、次の手順にしたがって整備を行ってください。

① 燃料コックを『閉』にしてストレーナーカップをはずします。

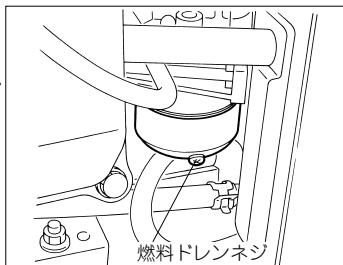
② 燃料コックを『開』にして燃料タンク内の燃料を全部抜きます。

③ 燃料コックを『閉』にして、ストレーナーカップを取り付けます。

#### <注意>

- ストレーナーカップを取り付けるとき、パッキン部にゴミが付着していないことを確認してください。

④ キャブレタ下部の燃料ドレンネジをゆるめて、キャブレター内の燃料を全部抜きます。



⑤ 運転スイッチを『OFF』にします。

⑥ エンジンオイルを交換します。

⑦ スパークプラグをはずし、その穴からエンジンオイルを約2～3ml注入します。

⑧ リコイルノブをゆっくり数回引きます。

⑨ スパークプラグを取り付けます。

⑩ リコイルノブを重くなるところまでゆっくり引き、元にもどします。

⑪ エアクリーナーを清掃します。

⑫ 各部を清掃し、湿気・ホコリの少ない場所にカバーなどをかけて保管します。

## 10. 故障時の対応

### !**危険：感電**

- 本機や体がぬれているときは、運転しないでください。
- 必ずエンジンを停止して行ってください。

### !**注意：けが**

- 必ずエンジンを停止して行ってください。

### !**注意：火災・やけど**

- 絶対に火気を近づけないでください。
- エンジンの停止直後は、エンジンやマフラーが高温になっていますので、エンジンが冷えてから行ってください。

本機の調子が悪いときは、次の表にしたがって点検してください。

点検しても正常にならないときは、お求めの販売店か弊社営業所に修理を申し付けてください。

症状	推定原因	処置
エンジンが始動しない	1. 燃料コック『閉』 2. 燃料の不足 3. 燃料に水やゴミが混入	1. 燃料コックを『開』にする 2. 燃料を給油する 3. 燃料タンク・燃料ストレーナーの水抜きと清掃
エンジンがすぐ停止する	1. オイルセンサー作動	1. オイルを給油する
使用機器が作動しない	1. ブレーカー『OFF』 2. 使用機器の電流が定格を超えている	1. ブレーカーを『ON』にする 2. 『使用できる機器の容量』を参考にする

# 株式会社やまびこ

〒 198-8760 東京都青梅市末広町 1-7-2 Tel 0428-32-6181

## やまびこ産業機械株式会社

〒 731-3167 広島市安佐南区大塚西6丁目2-11 Tel 082-849-2005 (代)

## やまびこ北海道株式会社

〒 004-0041 北海道札幌市厚別区大谷地東 1-2-20 Tel 011-891-2249 (代)

## やまびこ東北株式会社

〒 984-0002 宮城県仙台市若林区卸町東 5-1-50 Tel 022-288-0511 (代)

## やまびこ東部株式会社

〒 198-0025 東京都青梅市末広町 1-7-2 Tel 0428-32-1091 (代)

## やまびこ中部株式会社

〒 452-0031 愛知県清須市西枇杷島町宮前 1-39 Tel 052-502-4111 (代)

## やまびこ西部株式会社

〒 701-0221 岡山県岡山市南区藤田566-159 Tel 086-296-5911 (代)

## やまびこ九州株式会社

〒 816-0943 福岡県大野城市白木原 5-3-7 Tel 092-573-5361 (代)

## やまびこレンテックス株式会社

〒 198-0025 東京都青梅市末広町 1-7-2 Tel 0428-32-6777 (代)

ご用命の際はお買い上げいただいた販売店へご連絡ください。